

<p style="text-align: center;"><b>アジア金融論</b> Finance in Asia</p>	<p>(教員名) &lt; 蕭 文嫻 &gt;</p>	
<p>アジア・ビジネス研究分野 中核科目</p>	<p>講義科目</p>	<p>選択</p>
	<p>1 単位</p>	<p>2018 年度・後期</p>
<p><b>I 科目の主題</b> 産業構造や対外経済関係の再編を背景に、アジアの金融構造はこの数十年間で大きく変化している。1970 年代と 80 年代に形成されたいわゆる「雁行型成長モデル」は、90 年代以降の中国とインドの台頭によって大きく揺れ始めた。特に、中国経済の目覚ましい発展は、中国の国内金融だけでなく、アジア全体の金融構造にも大きく影響している。本講義では、アジア各国の金融構造を分析すると同時に、アジアの実体経済の変貌と金融構造の変動の関連性を明らかにしたいと考えている。</p>		
<p><b>II 授業の到達目標</b> 本講義では、日本、中国、香港、シンガポールの金融市場を概観し、アジア各国の金融構造の特徴とともに、その相互関係を探ってみる。まず、近年の中国の台頭は、アジア金融市場の発展にどのような影響を与えてきたかを考察する。さらに、アジア金融危機や人民元の国際化などの検討を通じて、アジアと国際金融との関係を考察する。</p>		
<p><b>III 授業内容・授業計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 回 アジア金融市場のイントロダクション</li> <li>第 2 回 金融市場の仕組みとその機能</li> <li>第 3 回 日本の金融システム (1)</li> <li>第 4 回 日本の金融システム (2)</li> <li>第 5 回 日本の金融システム (3)</li> <li>第 6 回 中国の金融改革 (1)</li> <li>第 7 回 中国の金融改革 (2)</li> <li>第 8 回 中国の金融改革 (3)</li> <li>第 9 回 香港の金融システム (1)</li> <li>第 10 回 香港の金融システム (2)</li> <li>第 11 回 シンガポールの金融市場 (1)</li> <li>第 12 回 シンガポールの金融市場 (2)</li> <li>第 13 回 アジアの通貨・金融危機 (1)</li> <li>第 14 回 アジアの通貨・金融危機 (2)</li> <li>第 15 回 アジアの経済発展と金融市場の特質</li> </ul>		
<p><b>IV 事前・事後の学習内容</b> 事前にテキストを予習する。授業後は出された課題を考える。</p>		
<p><b>V 評価方法</b> 期末試験・レポート(50 点) と出席を含めた授業態度 (50 点) によって評価する。</p>		
<p><b>VI 受講生へのコメント</b> 日頃から金融市場の変化に関心を持ち、実体経済と金融市場の関連性を常に考えてください。</p>		
<p><b>VII 教材</b> 荒巻健二『アジア通貨危機と IMF—グローバリゼーションの光と影』日本経済評論社、1999 年。 山上秀文『東アジアの新しい金融・資本市場の構築—銀行融資市場と債券市場の融合』日本評論社、2008 年。 池尾和人『現代の金融入門』[新版]、ちくま新書、2010 年。</p>		